

## 男女共同参画シリーズ その5

## 技術士全国大会における男女共同参画

Gender equality at the national conference of professional engineers

石田 佳子  
ISHIDA Yoshiko

## 1 はじめに

日本技術士会男女共同参画推進委員会（以下「男女委員会」という）が2011年に設立されてから14年、技術士登録者数に占める女性の割合は、設立時約1.4%、2024年3月時点で約2.6%であり、まだまだ少ない状況である。

私は、男女委員会設立の背景・経緯や目的をはじめ男女共同参画・ダイバーシティに関する意識の啓発や醸成に資するさまざまな活動を、今まで幾度となく紹介してきた。今回は、少し切り口を変え、技術士全国大会における男女共同参画・ダイバーシティ関連行事を紹介することで、日本技術士会の男女共同参画を振り返る。

## 2 黎明期

全国大会における「男女共同参画」への喚起は第40回（2013年）の札幌大会と記憶している。第1分科会が「技術者のワークライフバランス」であり、「ワークライフバランスの実現を阻むものは何か」など2題の話題提供に続き、学生、女性、管理職など立場の異なる参加者が、それぞれのテーブルでグループディスカッションを行い、また、その様子の傍聴参加もあった。

男女共同参画に関するはじめての分科会であるとともに、運営方法がグループディスカッションに傍聴席を設けたスタイルで、画期的であったことが記憶に残っている（写真1）。

続く第41回（2014年）福岡大会では、大会



写真1 第40回札幌

行事としての位置づけではないが、福岡周辺の女性技術士・修習技術者に広く声を掛け、昼食時に交流の機会を持つことができた。前日のウェルカムパーティでは昼食会のチラシ配布も行った。開催地域本部の女性会員は大会での役割が多く、参加が難しい状況ではあったが、全国大会における女性会員のランチ交流会の第一歩となった。

翌2015年の第42回富山大会は、次の年の横浜大会を前に、活動紹介のポスター展示と同時にポスター前での意見交換を行った。

## 3 成長期

第43回（2016年）横浜大会は、成長期の第一歩と位置づけられる。第5分科会として「男女共同参画」が設けられ、男女委員会が企画・運営を担った。第1部は「理系女子と男女共同参画社会」と題した（独）国立女性教育会館理事長内海房子氏の基調講演、第2部は「女性リーダーを育む環境整備」についてのパネル討論を実施した。パネル討論は、女性リーダーの育成・環境整備に目を向けることにより、男性管理職の意識啓発を目的としたものであった。

男女委員会の役割は、多様なロールモデルを示すこと、リーダー育成にむけての活動を推進することとし、声をあげることが大事であると分科会を通して呼びかけた（写真2）。

なお、大会宣言を行った古賀沙織氏は当時育児中であり、大会本部の1室でお母さまにお子さんを託し宣言に臨んだというエピソードがある。

そして、第44回（2017年）山口大会は、ウェルカムパーティにおける女性会員の交流、ポスター展示及び女性会員のランチ会に加え、本会議後の交流会における女性会員コーナーの設置もあり、全国大会における女性会員の交流が益々充実した大会となった。山口大会以降、交流会にお

ける女性会員コーナー（女性会員席）は定番となり、各地域本部において対応いただいている。

第45回（2018年）福島大会と第46回（2019年）徳島大会でも「男女共同参画」の分科会が持たれた。福島大会のテーマは「しなやかな女性の感性を科学技術に活かす～健全な男女参画を目指して～」、徳島大会は「地域活性化に寄与する男女共同参画のあり方～自分らしく働き続けるために～」であった。どちらもワークショップ形式であり、男女共同参画に関しては、会員の意識を喚起・誘導する目的があり、このような参加型がふさわしいと思われる。福島大会では、統括本部・東北本部の両男女委員会がコラボにてポスター展示を行い、訪れた会員に「ハタカク宣言」、「イクボス宣言」を表明してもらった（写真3）。

徳島大会は、大会前日に四国本部の女性会員の協力を得て「男女共同参画推進連絡会議」を開催した。第1部は「技術サロン10年間の総括と今後に向けて」と題し、技術サロンの総括と、四国本部をはじめ若手技術者の育成に取り組まれている組織に呼びかけ、その活動を紹介するとともに課題を共有した。



写真2 第43回横浜



写真3 第45回福島

## 4 成熟期にむけて

続く2020年（愛知）は、新型コロナ禍の中で中止となったが、男女共同参画に関連する分科会が計画されていた（2023年に改めて実施）。翌2021年の東京大会（創立70周年記念）では、第1分科会が「ジェンダー平等」であった。内閣府男女共同参画局長林伴子氏基調講演、女子大初の工学部を設置した奈良女子大学長今岡春樹氏他2名による話題提供と、リモートではあるがグループディスカッションの構成であった。ディスカッションでは、参加者が「これからできるこ

と」を表明した。

第49回（2023年）の愛知・中部大会においても第4分科会に「ジェンダー」が位置づけられ、多様な生き方や働き方を尊重する社会に向けたテーマのもと基調講演とグループ討議が行われた。

そして昨年、2024年、第50回札幌大会において、ふたたび「はじめて」が実現した。結果的に利用者はいなかったものの、「託児室の設置」がそれである。第4分科会のテーマ「ミライの技術者」は、女性や若手・多様な人材活躍を念頭に置いたテーマであり、まさにダイバーシティ&インクルージョンの体现であったと思う。

## 5 おわりに

男女委員会は2019年に「女性技術者育成への提言 Ver.2」を発信した。現在は日本技術士会全体の「DEI推進宣言（仮称）」策定に向け、案を検討している。

本号の刊行月には骨子ができていることであろう。この推進宣言を掲げ日本技術士会の男女共同参画（ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン）が増々加速されることを大いに期待する。

最後に、毎年、男女委員会のお願いにご対応いただいていた各地域本部長・大会委員長をはじめ関係各位には、深く感謝を申し上げます。

### 【男女共同参画推進委員会より】

当会における男女共同参画推進の歩みについて全国大会を切り口に振り返っていただいた。今後も、DEI推進に向けた様々な活動に対し、会員の皆さまのご理解ご協力を賜りたい。

石田 佳子（いしだ よしこ）  
技術士（衛生工学／建設／  
総合技術監理部門）

日本技術士会 理事  
男女共同参画推進委員会前委員長  
(株) 環境技研コンサルタント 執行役員（環境担当）  
e-mail : y.ishida@kankyogiken.co.jp

